

# 消防学校だより

## 令和7年11月・12月号

発行年月日 令和7年12月26日  
発行 宮崎県消防学校

### 救急科（外傷現場における初期観察と救急処置）

11月4日（火）、都城市消防局救急隊を講師に迎え、救急現場における外傷初期観察に関する講義と実技指導を実施していただきました。

高エネルギー外傷による傷病者については、搬送中の適切な処置が予後を左右すると言われており、搬送中の処置の標準化は救命率向上に不可欠です。活動現場での各段階において必要とされる観察・処置を見落としなく迅速に行うための訓練を実施しました。



### 救急科（ドクターヘリ研修）

11月11日（火）、宮崎大学医学部附属病院のドクターヘリの視察研修に行きました。

ドクターヘリはフライドクターとフライナースを現場に送り込み、現地での高度な医療活動を提供するとともに、医療の地域格差をなくす上でも非常に有効な手段です。現場で活動する救急隊員として、ドクターヘリの組織概要とヘリの諸元について学びを深めました。



### 救急科（ターニケット・サムスリング）

11月17日（月）、宮崎大学医学部の落合秀信教授から、ターニケット及びサムスリングの取扱いについて指導を受けました。

ターニケットは、四肢の結合部の出血や四肢が切断されるなどの動脈性の出血で、他の止血法によって制御できない場合の止血に用います。一方、サムスリングは不安定骨盤骨折やその疑いがある場合に骨盤を外周から圧迫固定し危険な出血を止める有効な応急手当装具です。

有事の際に適切な対応がとれるように、手技の向上を図ってまいります。



### 救急科（CPRシミュレーション）

12月3日（水）、講師として、宮崎市消防局の有馬亮一消防司令、西臼杵広域行政事務組合の甲斐奎士朗消防士長に講師としてきていただき、CPRを伴う救急事案を想定したシミュレーション訓練を実施しました。救急隊員が行える処置の範囲は限られていますが、その範囲内で病態を的確に理解し評価すること、適切な処置を施し、最適な医療機関に搬送する上で重要です。また、救急隊というチームが行う一連の処置の流れを、現実の場面に即して確認するために本訓練を行いました。



## 救急科（シミュレーション）

12月9日（火）、講師として、日向市消防本部の椎葉和喜消防司令補、串間市消防本部の矢通直幸消防司令補、西都市消防本部の楠瀬真悟消防士長に講師としてきていただき、外傷を伴う救急事案を想定したシミュレーション訓練を実施しました。



第31期救急科は12月11日、全てのカリキュラムを無事に修了しました。

## 第1期山岳救助コース

11月17日（月）から21日（金）の5日間で、第1期山岳救助コースを実施しました。

本県の約78パーセントが山林であり、毎年、山岳救助事案が発生しています。そのため、山岳に関する高度な知識と救助技術の習得が不可欠であることから、本年度よりこの教育訓練を開始しました。

講師に日本山岳ガイド協会所属で国立登山研修所でも講師をされている笹倉孝昭氏を招き、以下の内容でカリキュラムを構成しました。

- ①最適ルートで遭難場所に向かえるよう、地図の読み解力を身につける。
- ②科学的見地に基づいた確保要領や支点、係留点の構築方法を学ぶ。
- ③複雑な山岳地帯に入る際の登山技術を習得し、急峻な斜面から平坦な場所に負傷した遭難者を搬送するための静态ロープの使用法や背負い搬送などの資機材の取り扱い方などを学ぶ。



## 山岳における基礎知識

11月18日（火）、確保理論、山岳での行動、山岳救助活動について専門的な講義を笹倉孝昭講師から受けた後、屋外訓練場に移動しての実科訓練を行いました。支点構築では、現場にロープなどを設定する支持物が無い場合、自然物等を利用する技術のため、それぞれ力を掛ける方向など支持評価など決まり事があります。技術とともに知識もしっかりと学びました。

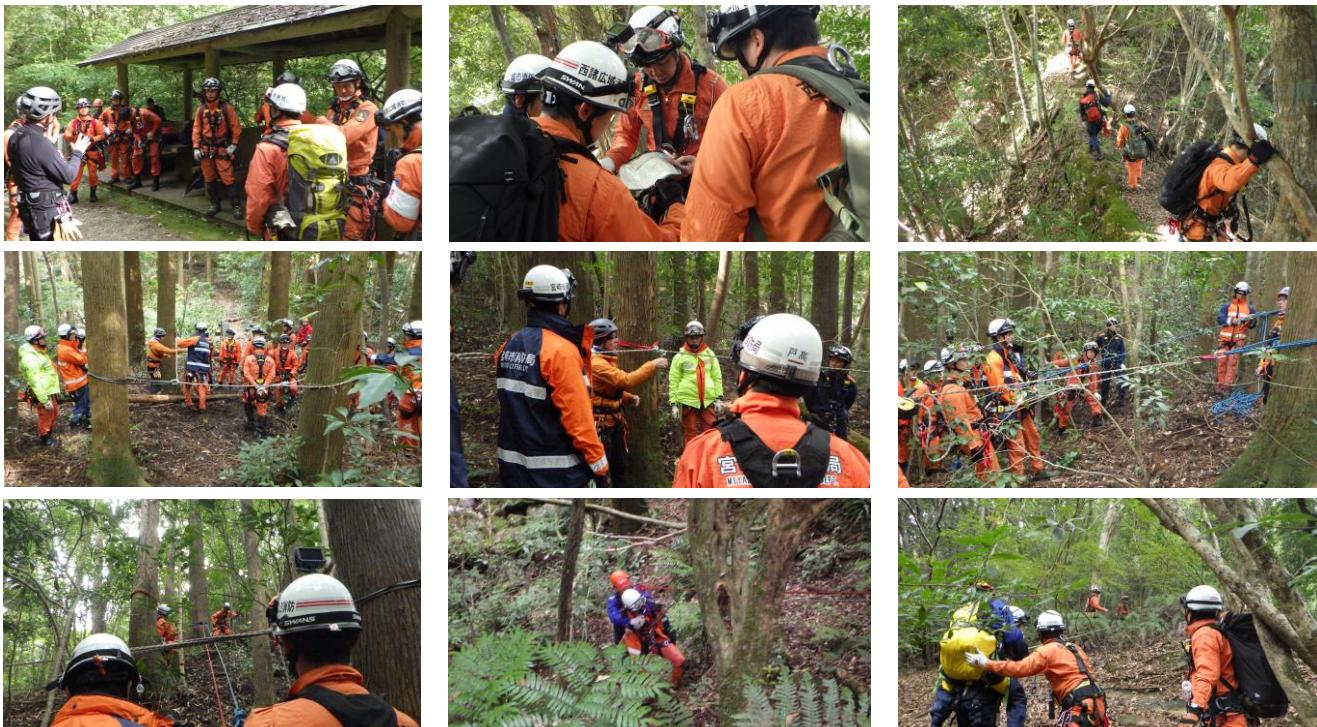


## 山岳における総合訓練

11月19日（水）に、小隊ごとに目的地を目指す訓練を実施しました。この訓練では、事前に座学で学習した内容に基づき、コンパスで進行方向を、高度計で高度をそれぞれ確認し、現在地を特定しながら進みました。近年では登山に使用する様々なアプリケーションがありますが、電子機器が使用できない状況でも進行方向や位置の確認ができるよう、コンパス、高度計、地形図を適切に活用するスキルを習得することを目的としました。

目的地到着後、下山に備え、以下の訓練を実施しました。

- 1 安全確保用ロープ（フィックス線の設定要領）の設定要領の確認
  - 2 急傾斜からの要救助者救出要領（要救助者がいるとの想定）
  - 3 スタティクロープを使用した基本システムの構築と要救助者搬送要領を確認
- これらの訓練を下山中に実施しました。



## 渓谷での救助訓練

11月20日（木）、低所からの救助及び対岸からの救助訓練のため、渓谷にて訓練を実施しました。立木などの自然物を利用する場合には、その状態や強度を必ず確認すること。たとえば立木の場合、枯れていなければ、根がしっかりと張っているか、幹がぐらついていないかなどを目で見て触って確認作業を行うことなどの指導を受け、太さでの目明を決めるのは難しいため、常に多重構造となるようにアンカーを構成することなどの支持を受け訓練を実施しました。

### 1 低所からの救出訓練



### 2 中州救助訓練



### 訓練効果確認

11月21日（金）の研修最終日には、訓練効果の確認を行いました。具体的には、救出活動前には安全確保のため必須となるフィックス線の設定や、支点構築、救出システムの構築など、この5日間で習得した手技について確認しました。



第1期山岳救助コースは、11月21日（金）に5日間の研修を無事修了しました。

来年度、第1期生の皆様には訓練補助者として第2期に参加していただく予定です。つきましては、引き続き訓練を継続してください。

## 消防団員特別研修

### オフロードバイク取扱い研修

11月28日（金）、県内の消防団バイク隊に所属する団員を対象に、オフロードバイク取扱研修を行い、県内消防団から4名が入校しました。

佐藤定光氏（元県警交通機動隊）を講師に迎え、「オフロードバイクとは・・」という基本的事項、車体特性やオフロード走行の注意点及び走行方法を座学で学びました。その後、屋外訓練場に移動して①乗車姿勢、②基本動作及び急発進や急制動、③一本橋走行や障害物走行などを実施し、オフロードバイク取扱いに関する基本的訓練を行いました。

少人数での実施により、講師から直接指導を受けることができ、各学生、基本技術の習得及び操作向上を図ることが出来ました。

佐藤講師

基本姿勢

基本走行

急制動



## 危険物科

12月18日（木）、第20期危険物科に、県内消防局・消防本部から13名の職員が入校しました。

消防法で定める危険物については、貯蔵・取扱い及び運搬において保安上の規制を行うことにより、火災による被害を軽減することとされています。しかし、危険物施設の高経年化が進み、腐食・劣化等を原因とする事故件数が増加するなど、様々な課題が山積しています。第一線で実務に従事する職員は、各所属での事案対応に苦慮していることと思いますが、危険物科での各講師からのアドバイスや同期との意見交換を参考に、今後の効果的な方策を見出されることを期待します。



## 危険物科（危険物施設研修）

12月19日（火）、危険物施設視察研修として、宮崎石油基地及び九州エナジーEnejet 宮崎インター給油所へ視察研修に行きました。

宮崎石油基地は、県内では最大規模の備蓄量を誇る施設で、各所属では見られない部分も視察できました。給油取扱所を含め、危険物施設における査察時の注意点などを現地で学ぶことができました。

宮崎石油基地



## 危険物科（特別研修）

12月22日（月）、消防大学校の林正志助教授から「危険物施設に対する査察・違反処理」の講義をしていただきました。今回は特別研修として、県内消防局・消防本部の危険物担当職員にも広く聴講してもらいました。

講義では、無許可貯蔵等の危険物に対する措置命令について、詳細な説明がありました。違反調査の前には、職員間で「何の違反を特定するのか」という共通認識を持つことが重要であること。また、違反処理に際しての整理方法などの説明があった後、実戦的なシミュレーションを実施。実際に模擬体験することで、効果的な教育訓練となりました。

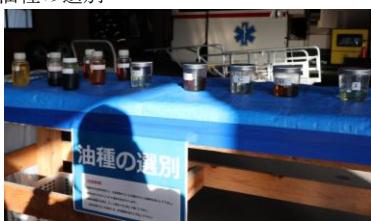


## 危険物科（危険物流出事故対応）

12月23日（火）、谷口商会株式会社営業部の小野雄二郎氏より、危険物流出事故対応についてご講義いただきました。消防法別表第一の品名に掲げられる危険物は、私たちの生活を豊かにする反面、取扱いを誤ると重大な事故を招きます。講義では、危険物の臭いや着色された色からの危険物の見分ける方法、道路など公共の場で流出した場合の対応、危険物の性質に応じた処理剤の使用など、実技を交えて学びました。

また、河川への流出など、水質事故時での現場でやってはいけないことや注意事項など、幅広い内容を教えていただきました。

油種の選別



吸着剤の説明、実験（処理剤散布後の適切処理の必要性）



処理剤を使用できない場合の対処法



第20期危険物科は、12月24日（水）に全てのカリキュラムを修了しました。

令和8年1月の主な行事

●火災調査科 1月19日(月)から1月30日(金)